果　樹　の　生　育　概　況

令和８年３月 11 日現在
福島県農業総合センター果樹研究所

１　気象概況

３月１～２半旬の平均気温は 4.6℃で平年より 0.4℃高かった。降水量は平年比 92％、日照時間は平年比 110％であった。

表１　半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(㎜)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
3	1	4.7	4.0	+0.7	9.0	9.3	−0.3	0.9	−0.7	+1.6	23.0	13.9	165.1	34.6	32.1	107.9
	2	4.4	4.4	+0.0	9.9	9.7	+0.2	0.5	−0.2	+0.7	0.0	11.2	0.0	36.6	32.6	112.1
平均･合計		4.6	4.2	+0.4	9.4	9.5	−0.1	0.7	−0.4	+1.1	23.0	25.1	91.6	71.2	64.7	110.0

２　発芽状況

モモ、ナシ、リンゴの各樹種において、発芽は確認されていない（３月 11 日現在）。

３　発育予測

仙台管区気象台が３月５日に発表した１ヶ月予報によると、向こう１ヶ月の気温は高い見込みとなっている。

今後の気温経過について気象予報を用いた場合、各樹種の発芽はモモ「あかつき」が３月 22 日頃で平年より１日早く、ナシ「幸水」が３月 31 日頃で平年並、リンゴ「ふじ」が３月 25 日頃で平年より１日早いと予測される。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温が２℃以上高く推移した場合、さらに生育が早まることが予想されるので注意する。

表２　発芽予測日［予測方法：発育速度（ＤＶＲ）モデルによる発育予測］

	発芽日		今後の気温経過			
	昨　年	平　年	平年並	2℃高い	2℃低い	気象予報
あかつき	３月24日	３月23日	３月22日	３月21日	３月24日	３月22日
幸　　水	３月28日	３月31日	３月31日	３月29日	４月４日	３月31日
ふ　　じ	３月26日	３月26日	３月26日	３月24日	３月29日	３月25日

注 1）発芽日の平年は 1996～2025 年の平均値。
注 2）今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、２週間気温予報及び１ヶ月予報気温（３～４週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。
注 3）発育予測は２～３日の誤差を生じる場合がある。

4　病害虫防除上の留意点

発芽前の防除は、温暖無風の日を選んで、遅れないように確実に実施する。

（１）リンゴ

近年、腐らん病の発生が多くなっているため、休眠期の防除を徹底する。薬剤による防除としては発芽前に石灰硫黄合剤　10 倍を温暖無風の日に散布する。また、本病の病原菌はせん定痕から侵入するため、せん定痕にはトップジンMペーストの原液を塗布する。発病が見られる場合は、発病部を削り取るかせん除し、園外に持ち出すとともに、削り取った部位にトップジンMペーストの原液を塗布する。

輪紋病の発生が多い園等で枝幹にいぼ病斑がみられる場合は、病患部を削り取る。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時にせん除し、第一次伝染源の密度低下を図る。

カイガラムシ類の発生が多い園では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落とす。

リンゴハダニの越冬卵量が多い園またはカイガラムシ類の発生の多い園では、発芽１週間前までに機械油乳剤 95　25 倍または発芽直前にハーベストオイル　50 倍を散布する。

（２）モ　モ

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむ頃まで）にキノンドー水和剤 40　500 倍、石灰硫黄合剤　10 倍、チオノックフロアブル　500 倍、トレノックスフロアブル 500 倍のいずれかを散布する。

カイガラムシ類の発生が多い園では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落とす。

コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル　500 倍を樹幹部及び主枝に散布する。

ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類に対しては、発芽前に機械油乳剤 95　25 倍を散布する。モモアカアブラムシまたはカイガラムシ類を対象とする場合は、機械油乳剤 95 にかえてハーベストオイル　50 倍を散布してもよい。

（３）ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむ頃まで）にキノンドー水和剤 40　700 倍、石灰硫黄合剤　10 倍、チオノックフロアブル　500 倍、トレノックスフロアブル 500 倍のいずれかを散布する。

カイガラムシ類の発生が多い園では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落とす。

コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布する。

カイガラムシ類に対しては、発芽前に機械油乳剤 95　25 倍を散布する。モモアカアブラムシまたはカイガラムシ類を対象とする場合は、機械油乳剤 95 にかえてハーベストオイル　50 倍を散布してもよい。

（４）ナ　シ

黒星病、ハダニ類及びニセナシサビダニを含む越冬病害虫に対しては、発芽 10 日前までに石灰硫黄合剤 10 倍を散布する。

「二十世紀」では、黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）をせん除する。

カイガラムシ類の発生が多い園では、粗皮下の越冬卵をワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落とす。

ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多い場合は、石灰硫黄合剤にかえて機械油乳剤 95　25 倍またはハーベストオイル　50 倍を散布する。ただし、樹勢が低下した樹には使用しない。

（５）ブドウ

晩腐病の病原菌は前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などで越冬し、黒とう病の病原菌は巻きひげや結果母枝の病斑部で越冬するため、これらを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図る。なお、巻きひげ除去の専用器具を用いることで、巻きひげの効率的な除去が可能である（参考：令和５年度参考となる成果）。

カイガラムシ類の発生が多い園では、粗皮下の越冬卵をワイヤーブラシなどでよくこすり落とす。

昨年、ハダニ類の発生がみられた場合は、休眠期に石灰硫黄合剤 20 倍を散布する。